

## シンポジウム 2 : 認定技師の現在と未来

## 1. 司会のことば

松尾 収二\*1 吾妻 美子\*2

## 【主旨と当日の討論】

認定試験は卒後教育の一つであるため本学会で論議されたことはほとんどない。臨床検査技師教育に一貫性を持たせるには「卒前教育」と「卒後教育」の連携が必須であり、そこには当然、卒後教育の要の一つである認定資格制度が存在する。本シンポジウムでは、臨床検査関連の学会代表の4名の先生方に登壇頂き、今後の教育について議論した。主な論点は以下のごとくであった。

- ① 日本臨床検査学教育協議会、日本臨床検査医学会、日本臨床検査同学院、日本臨床衛生検査技師会等が連携して「卒前教育」と「卒後教育」の一体化について協議する。特に「卒後教育」から「卒前教育」を考えることが求められる。
- ② 教育施設の教員は臨床検査関連学会の会員及び役員となり会務や学術活動を行う。
- ③ 教育施設を認定資格試験の会場として提供し、これに教員や学生が援助して、「卒後教育」の理解を深める。
- ④ 教員や学生も認定試験を受ける（現実には難しいとの意見）。一方、「卒前教育」（臨地実習以外）に高い技能を持った臨床検査技師を活用する。

## 【シンポジストと概要】

(1) 東 克巳(日本検査血液学会副理事長)

認定血液検査技師は、血液検査分野における高度な学識と技術を有し、良質な医療を国民に提供

することを目的とし、2003年から現在まで836名が誕生している。骨髄検査技師は、2013年開始でこれまで21名が合格した。

(2) 板羽秀之(日本臨床微生物学会幹事)

認定臨床微生物検査技師は、臨床微生物検査を高度に実践できる能力をもち、感染制御においても幅広く貢献できる資質を持った人が認定され、現在591名が登録されている。これとは別に感染制御認定臨床微生物検査技師が445名登録されている。

(3) 千葉仁志(日本臨床化学会理事)

日本臨床化学会は、臨床化学の専門科学者であることの保証に加えて、会員の国際活動の支援、法人としての社会的意義を目的として認定臨床化学者制度を設けている(239名)。

(4) 三村邦裕(日本臨床検査同学院理事)

二級臨床検査士は日本臨床検査医学会との共催で1954年に始まり、微生物学(寄生虫学を含む)、病理学、臨床化学、血液学、免疫血清学、循環生理学、神経生理学および呼吸生理学の領域で合格者は合計32,258名に上る。一級臨床検査士は臨床検査技師の認定資格試験としては最上級の試験であり、1956年から現在まで合計231名と少ない。緊急臨床検査士は、1992年に始まり3,860名が取得している。遺伝子分析科学認定士は関連6団体の審議会方式で、初級は459名、一級(2012年度開始)は6名が誕生している。

\*1 天理医療大学医療学部臨床検査学科 shuji-m@tenriyorozu-u.ac.jp

\*2 高知学園短期大学医療衛生学科医療検査専攻 agatsuma@kochi-gc.ac.jp